

## 授業づくり

### ■ これまでの取組における課題

- 対話活動が不十分で、生徒の主体的な活動や活動時間が保証されていない授業であった。
- 授業の基本過程が統一されておらず、学習意欲を高め学習の成果を可視化できていなかった。

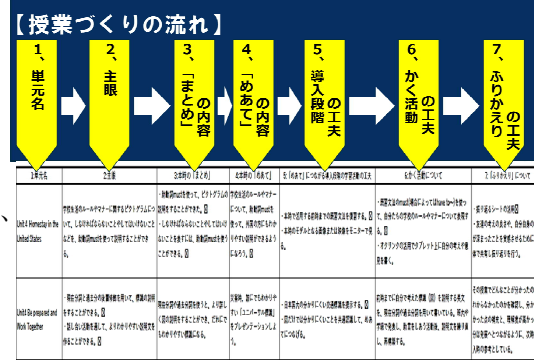
### 【課題解決に向けた取組テーマ】

～生徒の「学びたい」という意欲を引き出す授業づくり～

### 指導の実際(以下の取組が効果的だった!!)

#### ◀取組1▶大川桐薫中学校区共通実践事項集「問うくんナビ」の共通実践

◇ 小中学校で共通の授業づくりや学習活動のきまり等をまとめた「問うくんナビ」を作成し、授業改善に取り組んだ。具体的には、授業の導入段階に、実物や模型、ICT機器を活用した工夫を、展開段階に、「かく活動」に基づいた対話活動の充実を、終末段階に、「めあて」を意識させて「まとめ」を記述する活動、及び学びの変容を自覚させるための「ふりかえるシート」を活用した振り返りの活動を、それぞれ位置付けて共通実践に取り組んだ。



#### (取組1の成果)

○ 生徒アンケートを昨年度2学期と比較したところ、「授業の『めあて』」、「友達と話し合う活動」、「まとめ」に関する項目について、肯定的な回答の割合が増加した。これらのことから、授業の学習過程の統一が生徒の主体的で対話的な学びに効果的であったと考えられる。

【授業づくりの流れに合わせて授業を構想することができる「授業づくりシート」】

#### ◀取組2▶模擬授業を位置付けた授業研修会の実施

- ◇ 次の①～③の順序で授業研修会を行った。
- ① 授業者は「主眼」「まとめ」「めあて」「導入の工夫」「かく活動」「振り返りの方法」の順で、「授業づくりシート」を作成する。
  - ② 5～6名ずつの異教科グループで「授業づくりシート」をもとに模擬授業を実施し、授業構想について意見交換を行う。
  - ③ 授業者は学習指導案を作成し、学習指導案審議や再度模擬授業を実施する。



【模擬授業の様子】

#### (取組2の成果)

○ 授業の構想段階での模擬授業を仕組むことにより、生徒の立場で「疑問」や「つまづき」「発想」を交流し合うことができた。異教科グループで授業研修会を行ったことで、日常の教育活動の中でも授業づくりに関する疑問や悩みなどを活発に意見交換ができるようになった。

### ■ 授業づくりの取組における課題(●)、及び次年度の方向性(◇)

- 「まとめ」や「ふりかえり」の活動の目的を十分に実感できていないため、「まとめ」や「ふりかえり」の場面で生徒自身に自分の言葉で記述させる取組が徹底できていない。
- ◇ 校内研修会において、「まとめ」「ふりかえり」を位置付ける目的を再確認するとともに、模擬授業の際に、生徒による記述を促す発問を協議するなど、全職員での共通理解のもと共通実践を図る。

## 組織づくり

### ■ これまでの取組における課題

- 学力向上に関する取組において小中間のばらつきが見られた。
- 研究組織はあったものの十分に機能しているとは言い難い状況だった。

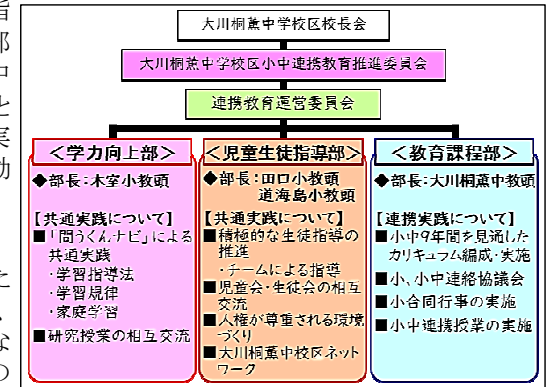
### 【課題解決に向けた取組テーマ】

～小中連携を中心に据えた組織づくり～

### 取組の実際(以下の取組が効果的だった!!)

#### ◀取組1▶小中連携した取組の実践

◇ 中学校区の小学校と連携した中学校区小中連携教育推進委員会を組織し、「学力向上部」、「児童生徒指導部」、「教育課程部」の各部署の部長に、中学校区の小中学校の教頭を位置付けるとともに、共通実践及び連携実践事項を明確にして小中連携した取組の充実を図った。



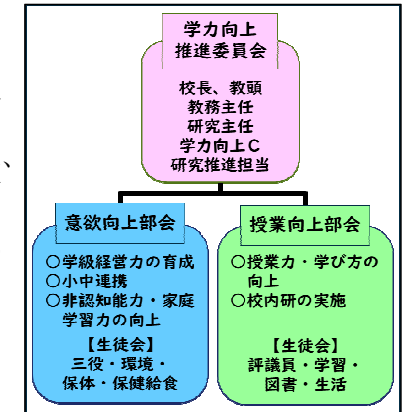
【大川桐薫中学校区小中連携組織図】

#### ◀取組2▶研究組織の見直し

◇ 研究組織を意欲向上部会と、授業向上部会の2つに分け、それぞれの部会に生徒会の委員会を対応させることで、取組の活性化が図られるようにした。また、学力向上推進委員会を週時程に位置付け、日常的な授業改善に向けた取組の状況把握、評価・改善がスムーズに行われるようにした。

#### (取組2の成果)

○ 各部会の取組が生徒会活動と連動して行われることが多くなり、学力向上に向けた取組の充実につながった。



【校内研究組織図】

### ■ 組織づくりの取組における課題(●)、及び次年度の方向性(◇)

- 小中連携の取組である「子ども自身に自分のことばでまとめを記述させる」、及び「ふりかえるシートを使ったふりかえり活動の実施」が不十分である。
- ◇ 校内の学力向上推進委員会及び小中連携学力向上部会において、「ふりかえるシート」の改善及びICTを活用した「ふりかえり」の具体化を進める。